

## 為替週間展望 = ドル円は高値圏でのみみ合いか

[7月8日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		7月1日～7月5日			
始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	160.81	161.95(3)	160.54(5)	160.64	-0.24
ユーロ・ドル	1.0714	1.0825(5)	1.0710(2)	1.0822	+0.0109

  

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
日経平均株価	40,912.37	+1329.29	日本10年債利回り	1.079	+0.022
ダウ平均株価	39,308.00	+189.14	米10年債利回り	4.359	-0.103

<来週の主要経済統計等>

- 8日 日本5月経常収支  
日銀支店長会議、地域経済報告(さくらレポート)  
独5月貿易収支
- 9日 日銀が債券市場参加者会合を開催(9-10日)  
パウエルFRB議長議会証言  
北大西洋条約機構(NATO)首脳会議(11日まで)
- 10日 中国6月消費者物価指数、中国6月生産者物価指数  
NZ準備銀行(RBNZ)政策金利  
パウエルFRB議長議会証言
- 11日 日本5月機械受注高  
独6月消費者物価指数  
英5月鉱工業生産指数、英5月製造業生産指数  
英5月月次GDP、英5月貿易収支  
米6月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数
- 12日 中国6月貿易収支  
日本5月鉱工業生産指数確報値  
独5月小売売上高指数  
米6月生産者物価指数  
米7月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米経済指標は強弱入り乱れる可能性はあるものの、いきなり大幅な悪化の可能性は低い。政府・日銀による介入が警戒されるものの、ドル円は米経済指標を眺めながら推移が続くとみられる。日米金利が大きく縮小するような流れとはなりにくく、ドル円はもみ合いながら緩やかに上値を追う展開になるとした。

【米経済指標は鈍化や減速するものも目立つ】

6月28日にドル円は一時161円台に乗せた。7月1日以降はおおむね161円台で推移しており、3日には一時161.95近辺まで上昇して、162円乗せ目前まで上値を伸ばした。なお、高値圏では政府・日銀によるドル売り円買い介入への警戒感などが上値を抑えており、上昇ペースは緩やかなものとなっている。

米経済指標は強弱まちまちながら、悪化を示すものも徐々に増えてきており、米10年債利回りも1日に4.45%近辺まで上昇した後は低下を見せている。米国の株高などはリスクオンの動きにつながり、それが円売りにつながっている。また、日銀による金融正常化への動きの鈍さもあり、対主要通貨で円は売られやすい流れが継続している。

ドル円だけでなく、クロス円でも円売りの動きが続いて、大きく上昇している。ユーロ円は3日に174.50台まで上昇して対ユーロでの最安値を更新している。ポンド円は206.10台、豪ドル円は108.50台まで上値を伸ばしており、円独歩安の様相を呈している。

1日の米6月ISM製造業景況指数は48.5となり、市場予想(49.0)や前回(48.7)を下回った。2日の5月の米雇用動態調査(JOLT S求人件数)は814.0万人となり、市場予想(794.6万人)を上回ったものの、前回は下方修正された。3日の米6月米ADP雇用統計は15.0万人増となり、市場予想(16.5万人増)を下回った。

3日の新規失業保険申請件数は23.8万件となり、事前予想(23.4万件)を上回った。米失業保険継続受給者数は185.8万件となり、事前予想の184万件を上回った。米6月米ISM非製造業景況指数は48.8となり、事前予想(52.7)や前回(53.8)を大きく下回った。このように米経済指標にも鈍化を示すものが増えてきている。

2日に開催された欧州中央銀行(ECB)フォーラムのパネル討論会で、パウエルFRB議長は「利下げに踏み切るにはインフレ鈍化を示すさらなるデータの確認が必要」「1年後にインフレが2%台半ばから後半になると予想している」などと述べた。さらに「物価はデysinフレ傾向の再開を示すようになった」と述べたこともあり、ドル売りの動きにつながった。

なお、パウエル議長は9日と10日に議会証言を行う。ここでインフレ動向や利下げに関してなどに関して一段と踏み込んだ発言があるかどうか注目される。ハト派寄りの発言となればドル売りに傾く可能性もありそうだ。

米経済指標の鈍化が米連邦準備制度理事会(FRB)による年内利下げ期待につながっており、市場の予想では年内2回の利下げがコンセンサスとなりつつある。7月8日の週は、11日の米6月消費者物価指数が注目される。5月の米消費者物価指数、米個人消費支出(PCE)デフレーターなど同様に鈍化傾向を示すようならドルの上値を抑える要因となりそうだ。

米経済指標が弱い場合にややドル売りに傾きやすくなりそうだ。ただ、円売りの流れは継続するとみられる。介入警戒感が根強い中、ドル円は高値圏でのみみ合いが続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、158.00~163.50円。

日米の経済指標やイベントとしては、8日に日本5月経常収支、11日に日本5月機械受注、米6月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、12日に日本5月鉱工業生産指数確報値、米6月生産者物価指数、米7月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

#### 【ユーロドルは戻り歩調で推移か】

30日のフランスの総選挙の第1回目投票は、予想取りにルペン氏率いる極右の国民連合が第1党となった。ただ、過半数を占めるには至らず、おおむね市場予想の範囲内だったとみなされ、ユーロ買いの動きにつながった。

3日にはISM非製造業景況指数は予想外の弱さを見せ、判断基準の50を下回った。これがドル売りの動きにつながり、ユーロドルは一時1.0810台まで上昇を見せた。ユーロドルは5日移動平均線をサポートに底堅い動きを見せ、21日移動平均線も上抜いている。堅調な推移が続く中、戻り歩調で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0650~1.0950ドル。

7月4日の英総選挙では、最大野党・労働党が圧勝したと報じられており、政権交代の可能性が高まった。おおむね予想通りの結果となっており、ポンドドルを下支えする効果が期待される。

ポンドドルは1.2600接近まで下落したところでは底堅く、もみ合い後に上昇に転じている。ドルの弱さもあって、3日に1.27台後半まで上値を伸ばした。その後

も堅調な推移を見せている。この流れを引き継いで、今後は緩やかに上値を追う展開となりそうだ。ポンドドルの目先の予想レンジは、1. 2600～1. 2900ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、8日に独5月貿易収支、10日に中国6月消費者物価指数、中国6月生産者物価指数、NZ準備銀行（RBNZ）政策金利、11日に独6月消費者物価指数、英5月鉱工業生産指数、英5月製造業生産指数、英5月月次GDP、英5月貿易収支、12日に中国6月貿易収支、独5月小売売上高指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。